

お父さんの木挽（こびき） 〱 択捉島出身の伊藤 光作さん 〱

伊藤光作さん一家は択捉島留別村のビョーノツに、お父さんの五郎さん、お母さんのキノエさん、次男の光作さんを含む五人のきょうだいの七人家族で住み、家業はノリ採りの漁師でした。他にもアシリコイトイヒラにも家を持ち、主にタラ釣りをしており、夏はノリ、冬はタラ釣りを生計を立てていました。

この木挽は、丸太を角材などに加工するためのもので、お父さんは何軒もの家を建てました。ビョーノツの家もアシリコイトイヒラの家も、お父さんがこの木挽を使って建てたもので、特にビョーノツの家はノリの乾燥場を併設した大きな

建物で、奥には寝起きする場所があつて、乾燥場でご飯を食べていたそうです。お父さんは自分で家を建てたほか、ソ連軍侵攻後にはロシア人に頼まれて馬の蹄鉄を作るなど、とても器用な方でした。

引き揚げは昭和二十三年の十月で、この木挽は布団の中に隠して持ち出しました。島では大きな木挽も使っていました。が隠せないため、持ち出すことはできませんでした。引き揚げ時には手荷物の個数制限はされませんが、船に荷物を積み込む際にモッコ（網袋）の隙間からぼろぼろと荷物が落ちてしまい、いくつもの荷物がなくなってしまういました。幸いにも

この木挽は残った荷物の中にありました。引き揚げ後にはお父さんの実家を頼って秋田県に移り住みましたが、そちらでの家も、この木挽でお父さんが建てたものでした。

お父さんはこの木挽をとっても大切にしていたので、光作さんも幾度の引っ越しの度にも捨てたりはせず、お父さんの思い出の品として大切に保管されています。



【追記】

木挽は光作さんのご厚意より、根室市に寄贈され、現在は根室市北方領土資料館に展示されています。